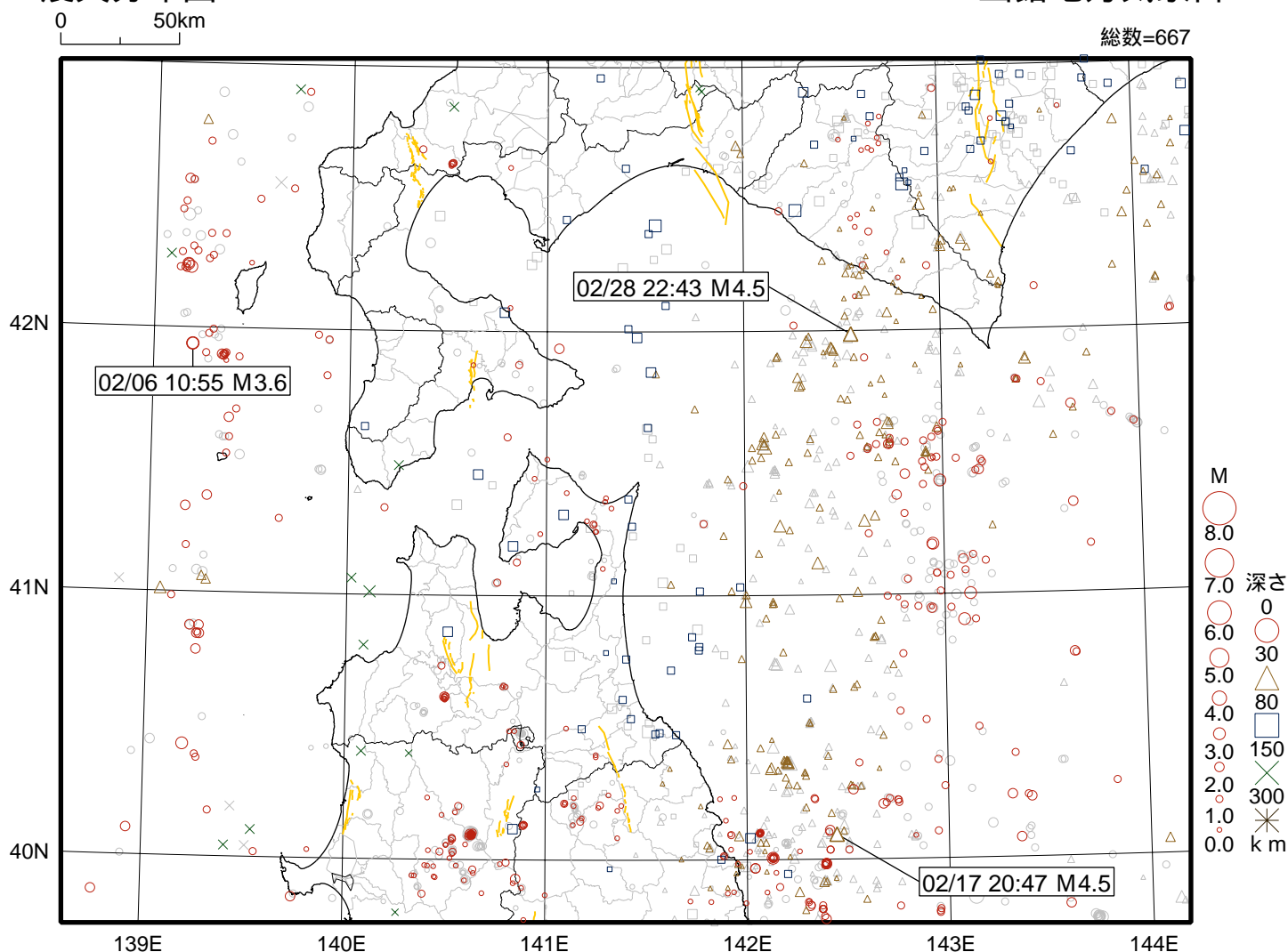


渡島・檜山地方の地震活動図

2024年2月1日～2024年2月29日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2024年2月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（1月は2回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

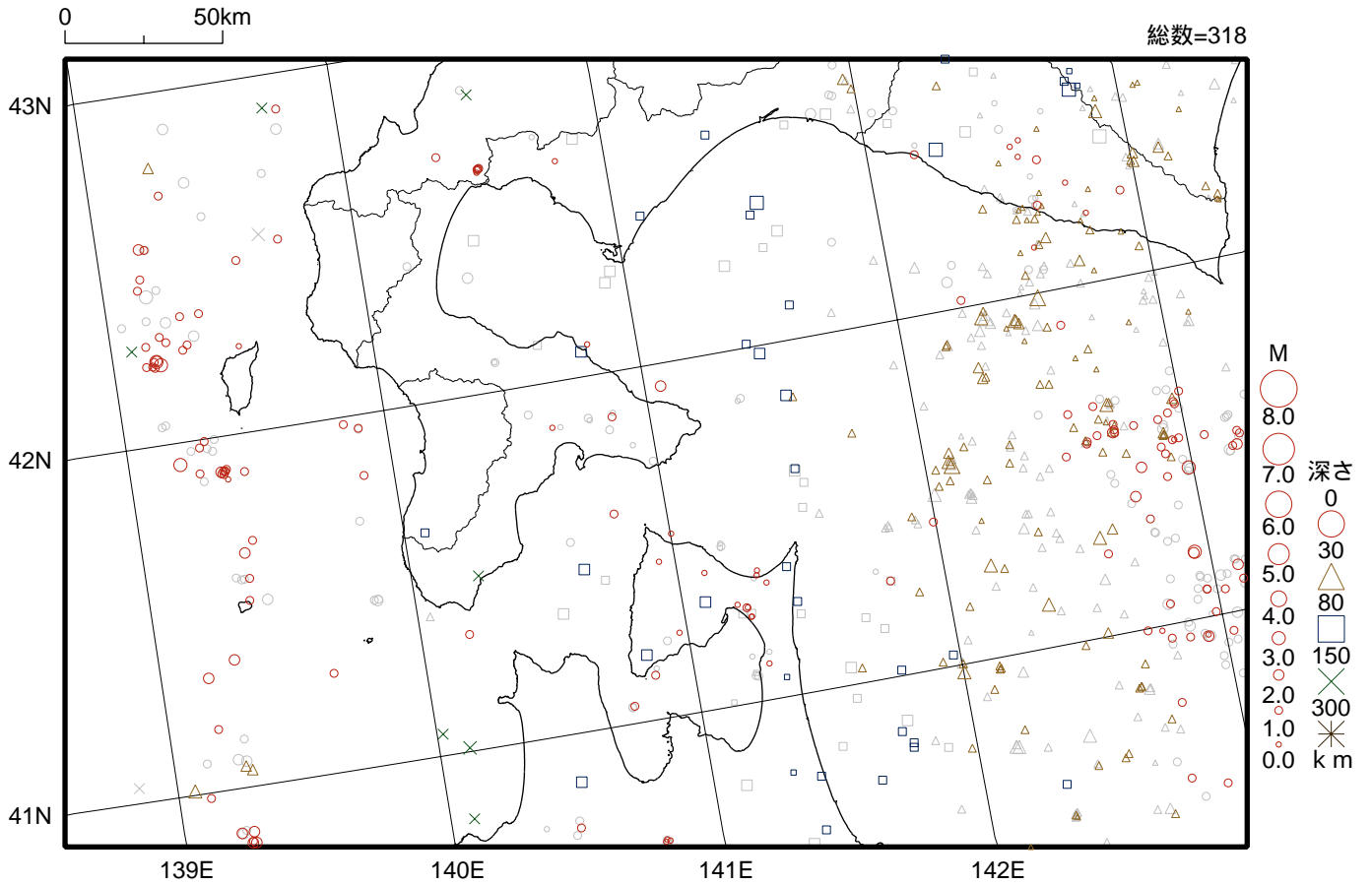
6日10時55分、北海道南西沖の地震(M3.6、深さ19km)により、八雲町で震度1を観測しました。

17日20時47分、岩手県沖の地震(M4.5、深さ38km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

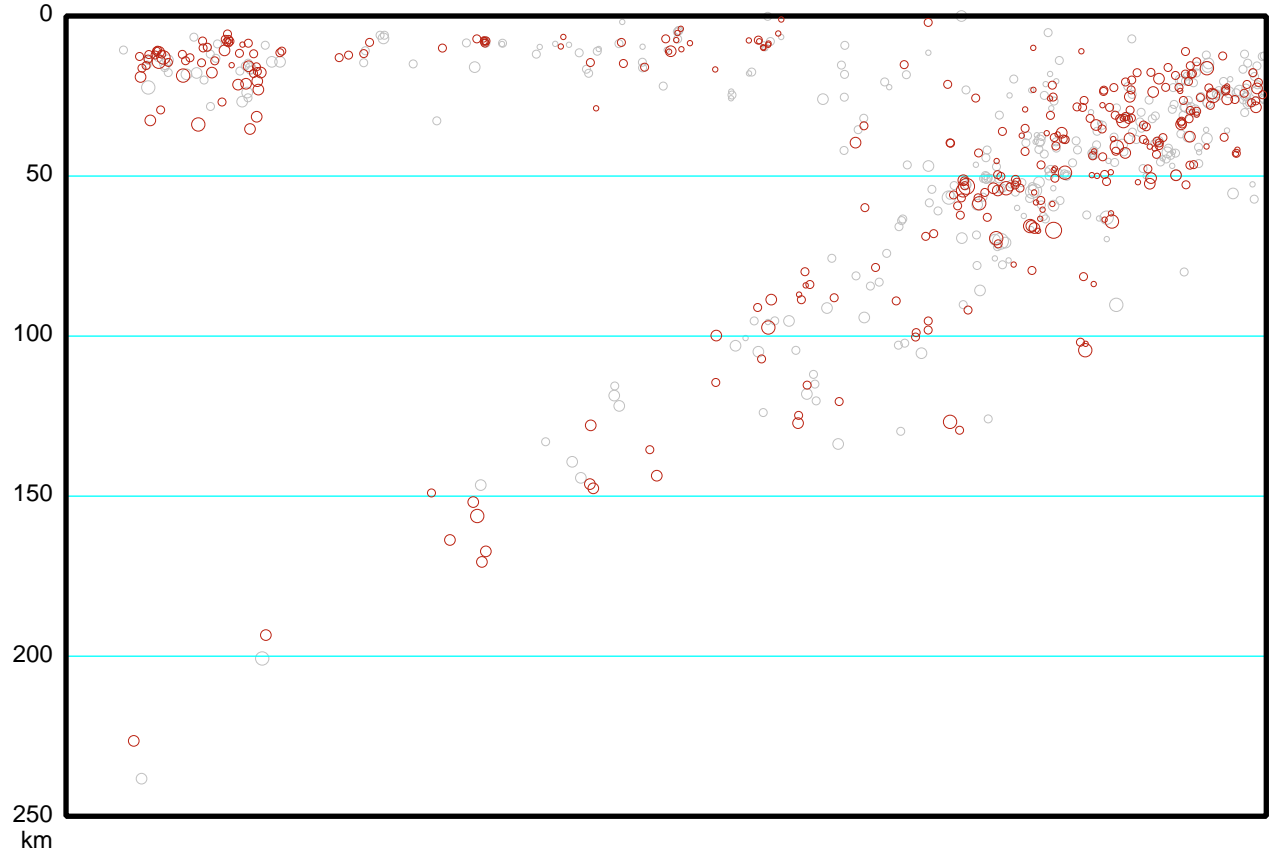
28日22時43分、浦河沖の地震(M4.5、深さ67km)により、函館市新浜町で震度2を観測したほか、函館市尾札部町、函館市泊町、函館市川汲町、鹿部町で震度1を観測しました。

2024年2月1日 ~ 2024年2月29日

震央分布図



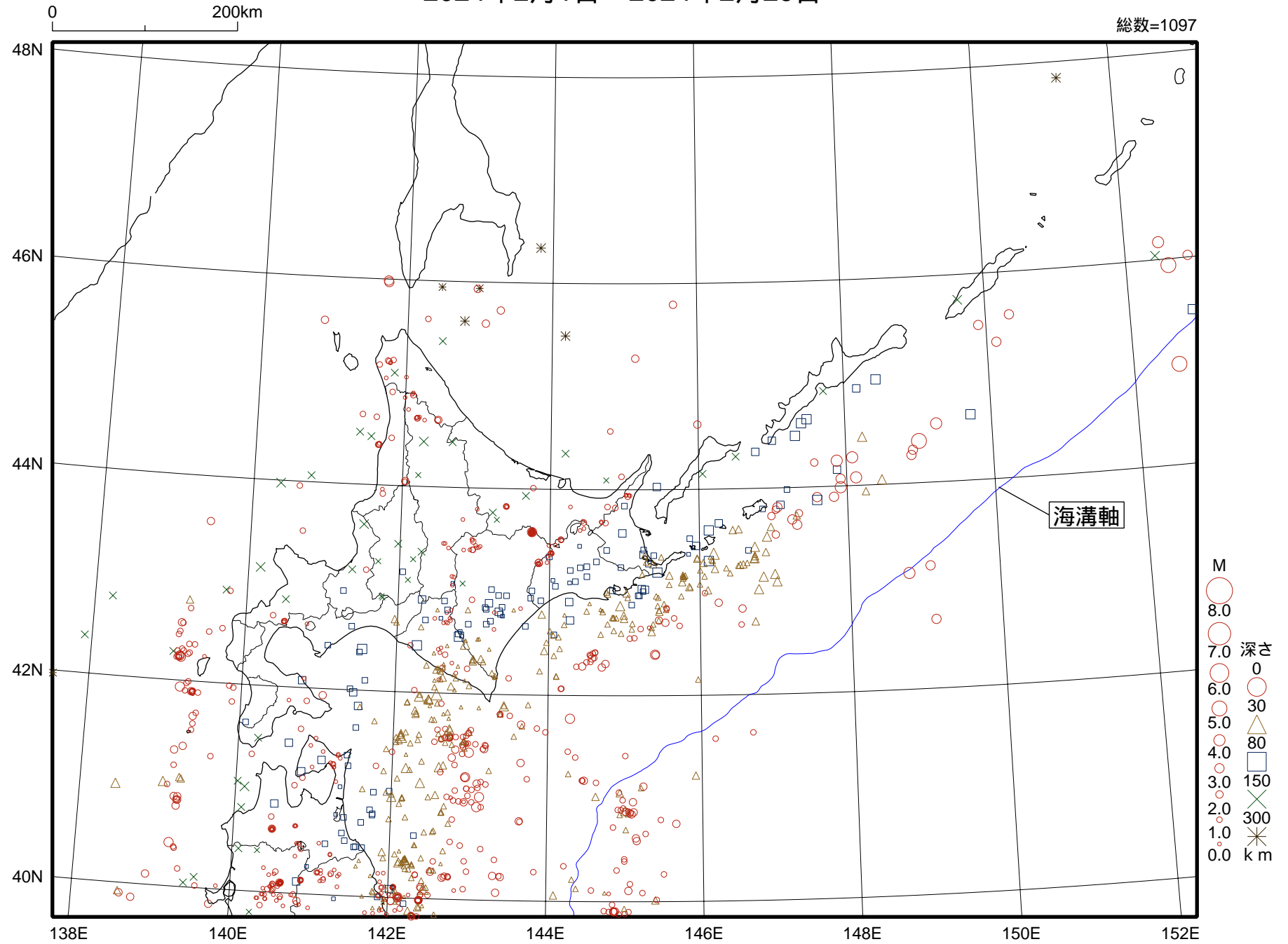
断面図



北海道の地震活動図

2024年2月1日 ~ 2024年2月29日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2024年2月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2024年 2月 6日 渡島地方	10時55分 震度 1	北海道南西沖 八雲町熊石雲石町* (05)	41° 56.2 N	139° 11.8 E	19 km	M3.6
2024年 2月17日 渡島地方	20時47分 震度 1	岩手県沖 函館市泊町* (08)	40° 05.6 N	142° 26.6 E	38 km	M4.5
2024年 2月28日 渡島地方	22時43分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市新浜町* (16) 函館市尾札部町(05) 函館市泊町* (13) 函館市川汲町* (10) 鹿部町宮浜* (08)	41° 59.2 N	142° 32.6 E	67 km	M4.5

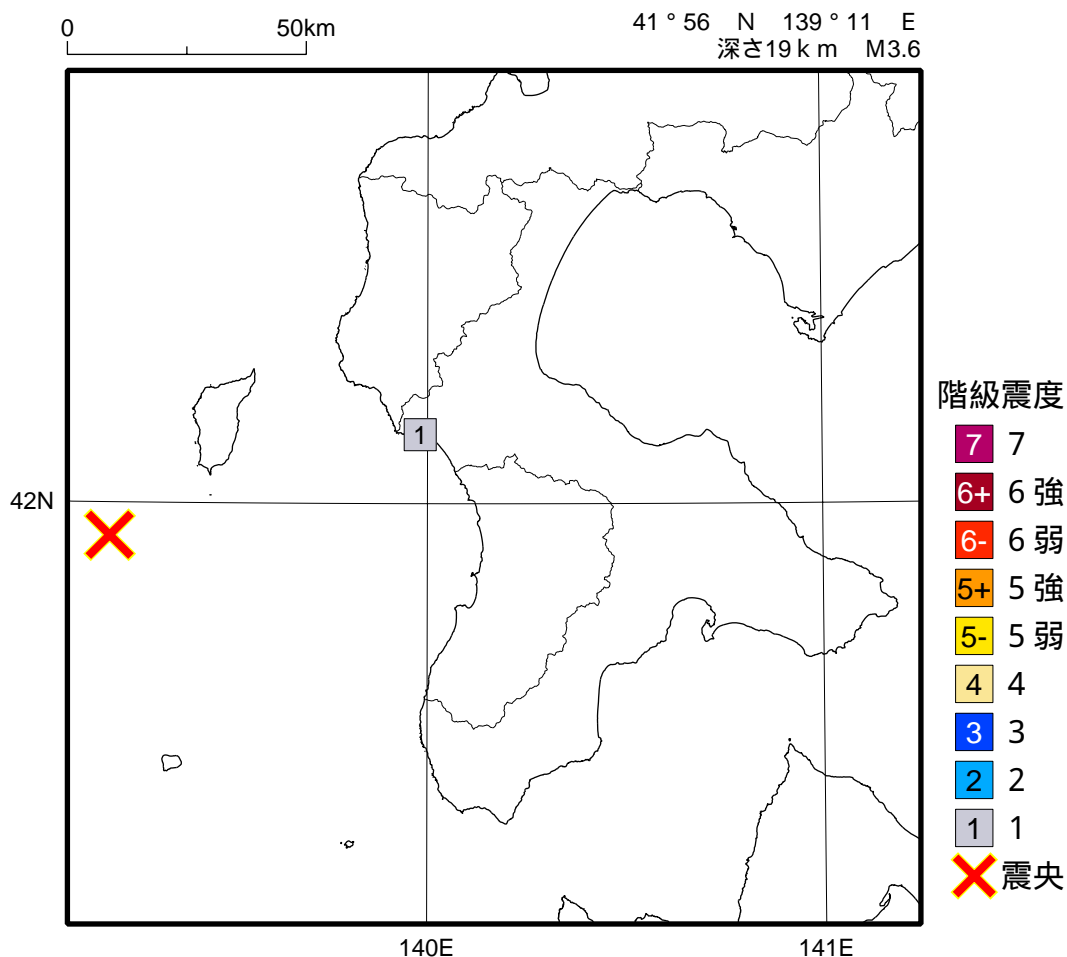
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

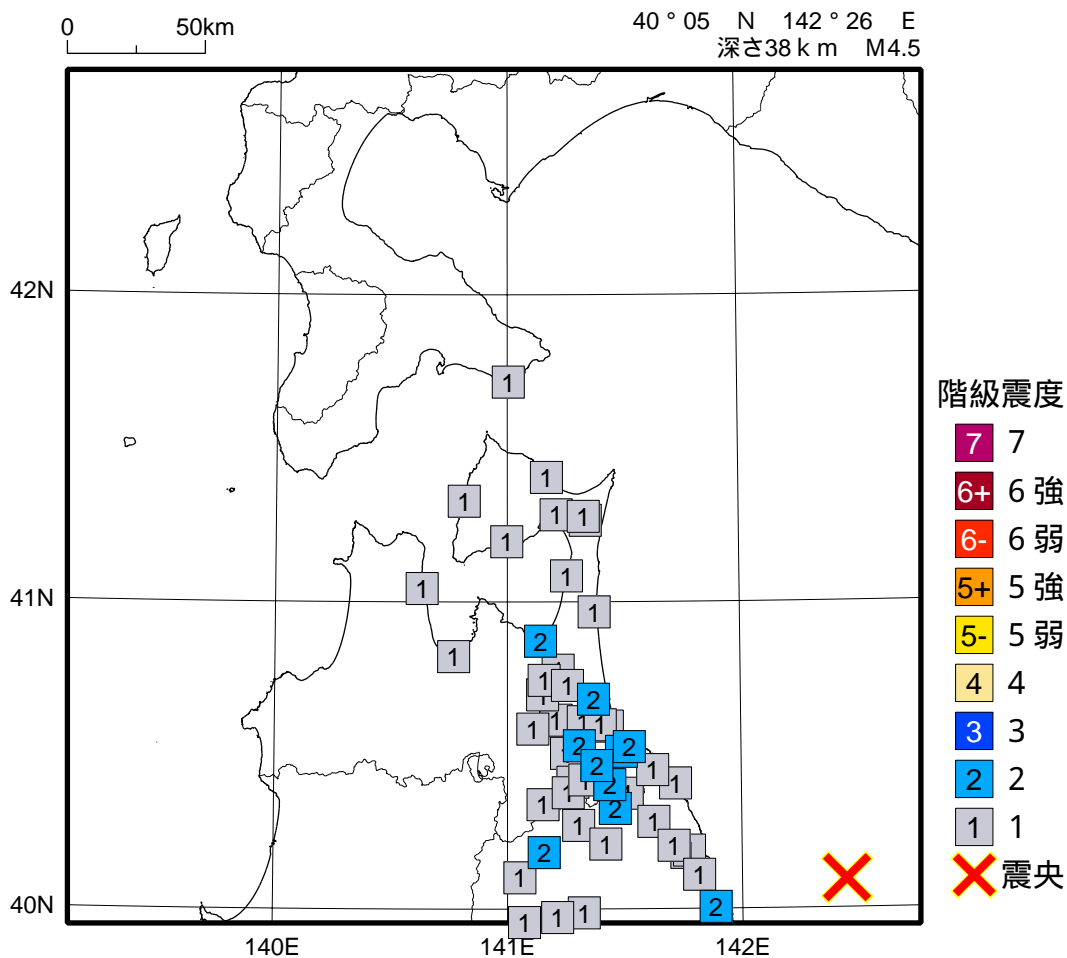
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

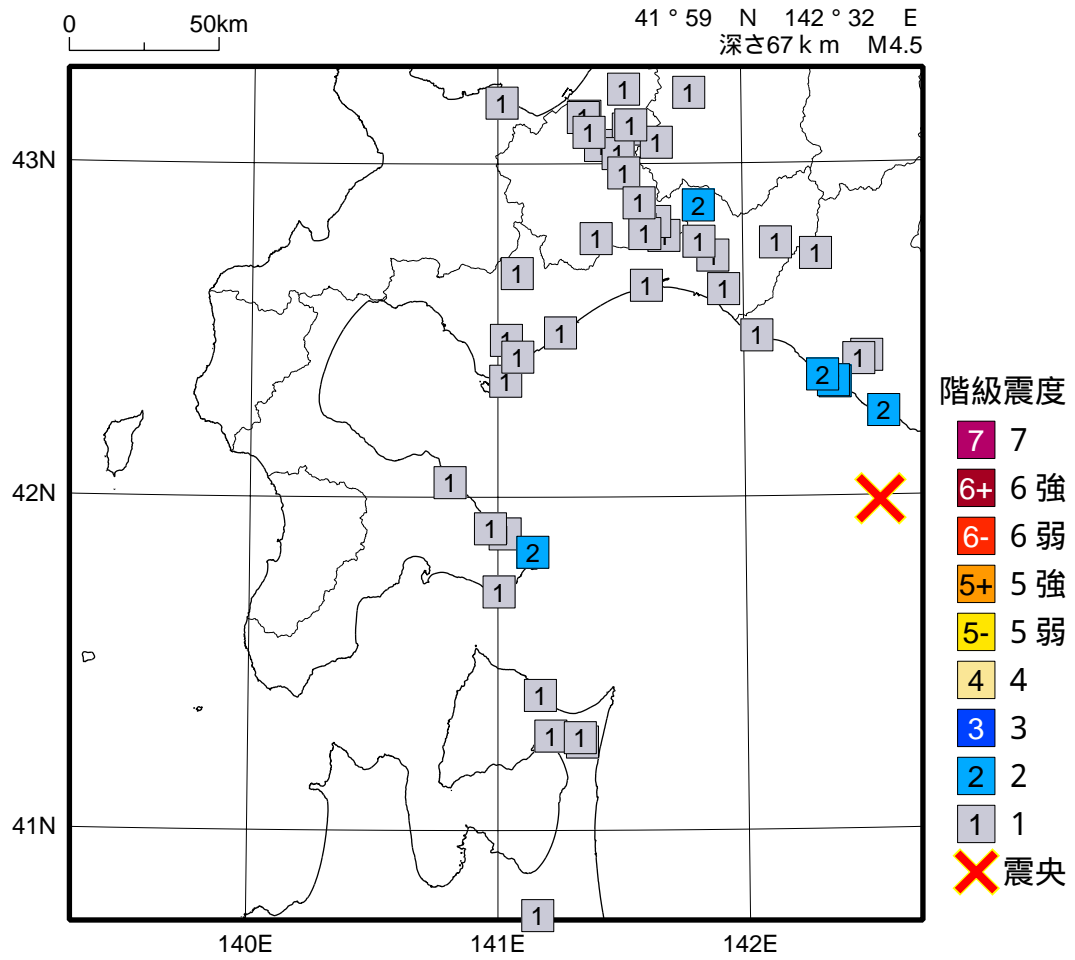
2024年 2月 6日10時55分 北海道南西沖の地震の震度分布図



2024年 2月 17日20時47分 岩手県沖の地震の震度分布図



2024年 2月28日22時43分 浦河沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～異常震域～

一般に、地震の揺れは震源から遠くに伝わるほどに減衰して弱くなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では、震源に近い場所よりも遠く離れた場所の方が強く揺れる場合があります。この現象を「異常震域」と呼びます。

海洋プレートが大陸側に深く沈み込んでいる日本周辺では、深発地震の場合、震源に近い側の地表に到達する地震波は、地震波が減衰しやすい領域（図1の黄色の領域）を通る一方、太平洋側の地表に到達する地震波は、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通ります。その結果、震源から遠く離れた太平洋側で震度が大きくなります（図1、図2）。

特徴的な震度分布のため「異常震域」と呼ばれますが、発生した地震自体が異常というわけではありません。なお、異常震域を生じるような深発地震でも、地震の規模が大きくなれば強い揺れによる被害を生じることがあります。

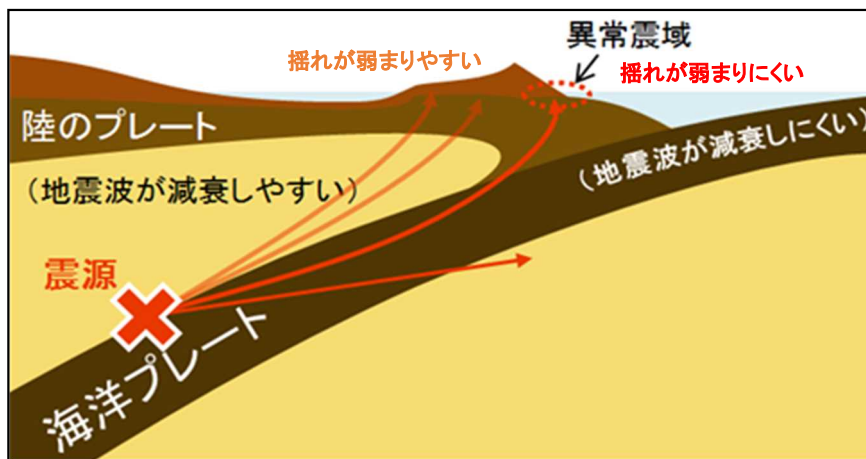
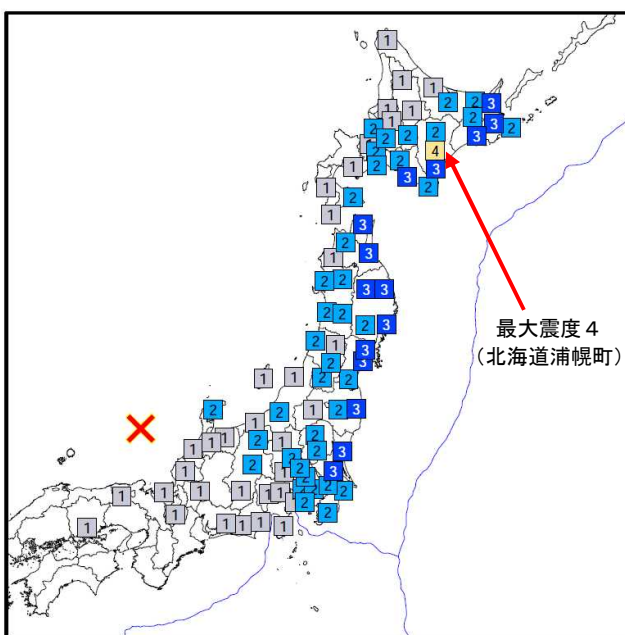
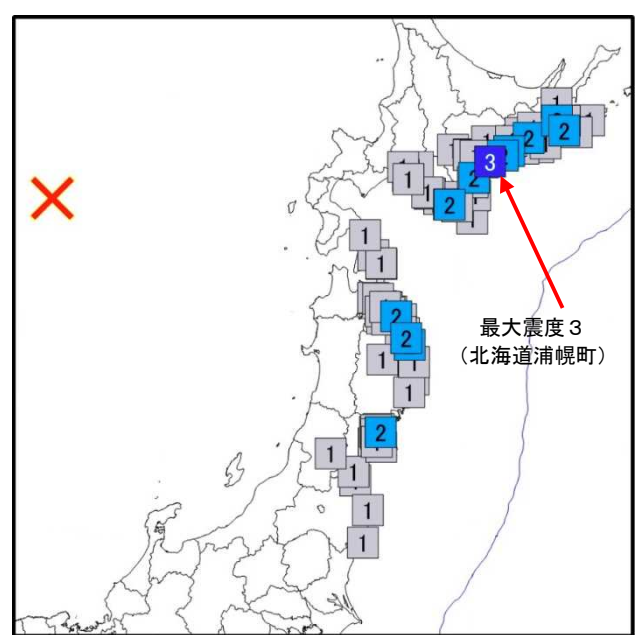


図1 異常震域模式図（断面図）



京都府沖の地震の震度分布図

(2007年7月16日 M 6.7 深さ374km)



日本海北部の地震の震度分布図

(2023年6月28日 M 6.3 深さ518km)

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）